

むろと元気塾

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

自然体験活動をととして、幼児、児童、生徒のコミュニケーション能力を高めるとともに自己肯定感の向上を図る。

○ 実施期間

令和3年8月17日（火）～18日（水） 1泊2日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

児童養護施設博愛園を利用している幼児（幼稚部6名）、児童・生徒（女子部13名）、指導者（10名） 計29名

○ 活動プログラム

8月17日(火)	8月18日(水)
8:40 博愛園 発	6:00 起床・退所点検
10:40 自然の家 着	7:30 朝食
10:50 荷物整理・入所オリエンテーション	8:30 自然の家 発
11:30 お弁当 休憩	9:00 むろと廃校水族館 見学
12:40 女子部：室内フォトビンゴ 幼稚部：軽スポーツ	10:00 むろと廃校水族館 発
13:40 休憩	11:00 女子部：室内活動 幼稚部：お絵かき・絵本
14:00 七宝焼き	12:00 昼食(食堂)
15:00 流木クラフト・焼き板工作 竹笛作り	13:00 自然の家 退所
17:20 休憩・つどい・移動	15:00 博愛園着
17:45 夕食	
18:40 ベッドメイキング・入浴	
20:00 自由時間	
21:30 就寝準備	

2. 活動の様子

<1日目>

児童養護施設博愛園（女子部・幼稚部）と連携して、むろと元気塾を行った。幼児、児童、生徒19名、指導者10名、計29名が本事業に参加した。雨天での開催になったため、2日とも荒天プログラムを実施したが、日常では体験できないプログラムによりどの参加者も楽しそうに活動することができた。また、SDGsの目標15「陸の豊かさを守ろう」に関連し、木を使った工作を通して、自然の豊かさや大切さについて考えるきっかけとなるようにした。

前半は、女子部は室内フォトビンゴ、幼稚部は軽スポーツを行った。室内フォトビンゴでは、難しい問題もあったが、班で協力して問題をクリアし、ポイントを探ることができていた。時間を気にしながら活動でき、上級生が下級生に「そろそろ時間がなくなるから行こう。」と声掛けをする姿が見られた。幼稚部は軽スポーツとして風船運びリレーやボール投げなどを行った。全体的に意欲的に楽しみながら行っていた。参加の難しかった幼児も途中から、風船を触ることができ、指導者に協力してもらいながら友達と活動する姿も見られた。

後半は、工作活動を行った。最初に行った七宝焼きでは、参加者が思い思いのデザインを考え制作した。焼く前と焼いた後の色の変化に気付いたり、出来上がった作品を友達と見比べ感想を伝え合ったりするなどして、楽しそうに活動していた。

焼き板工作では、ガスバーナーの火を使うことを経験したり、焼いた後の木の色の変化を楽しんだりした。作業を先に終えた参加者が、他の参加者に進んで次の作業を教えてあげていた。

竹笛では、初めての小刀に苦戦しながらも一生懸命竹を削っていく姿が見られた。出来上がった竹笛を吹きながら部屋の中を歩き、みんなから褒められてうれしそうにしている児童もいた。

流木クラフトでは、見本の手触りのよさに驚き、どの参加者も一生懸命紙やすりで削っていた。こだわりがあり、長い時間削ったり、小刀で少し形を変形させてからクラフトを作ったりするなど工夫する参加者もあり、幼児部も含めて全員丁寧に作品を作ることができていた。

夜、ベッドメイキングをする際には、参加している指導者の方々の協力もあり、自分たちでスムーズに準備することができていた。幼児の体調面も配慮し、その後はゆっくりと自由時間を過ごした。

< 2日目 >

2日目の朝は、ベッドの片付けの状態もよく、落とし物などもない状態で、普段から基本的な生活習慣の指導が徹底されていることを感じることもできた。

朝食後、むろと廃校水族館見学を行った。見たことのない魚に興味をもったり、大きなウミガメに驚いたり怖がったりしていた。自然の家の職員も魚の解説を行い、魚のおもしろい生態についても知ることができた。

帰所後、女子部は室内でコロナ感染に配慮した非接触型の簡単なゲームを行った。目でコミュニケーションをとったり、みんなで協力したりすることができた。幼児部は、室戸市やむろと廃校水族館にちなんで、海の生物のぬり絵を行い、楽しそうに活動していた。「もっとしたい。」と裏面に自ら絵を描いて塗っている幼児もいた。

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・雨天でいろいろと予定が変わり、残念な気持ちでいっぱいでしたが、普段できない体験をすることができて、とても楽しく充実した時間でした。(高校生)
- ・みんなと協力する大切さ考えることができた。(中学生)
- ・焼き板工作も、七宝焼きも楽しくできたのでよかったし、いろいろな体験もできてよかった。廃校水族館に魚もいっぱいいたし、特にエイがおもしろかったです。(小学生)

- ・活動内容が多く、子どもたちが楽しそうだった。良い夏の思い出になった。(指導者)
- ・お天気の良い時に海活動がしたかった。(指導者)

○ 事業の成果

- ・最初は不安そうだった児童も活動をするに連れて、緊張が解け笑顔で取り組むことができていた。
- ・室内フォトビンゴや軽スポーツを通して、参加者同士でコミュニケーションを取り、意欲的に関わることができていた。
- ・工作活動では、夢中になって活動を行い、一人一人思いのこもった作品を仕上げている。先に仕上げた人が次の人に教えてあげるなど、自然と協力する姿勢が身についていた。指導者からも流木クラフトを体験し、またやりたいという感想があった。自分の作品を友達や指導者に嬉しそうに見せる児童もおり、上手に作ることができたという自信をもつことができていた。
- ・むろと廃校水族館では、普段見ることのない生物を見て感動していた。また、サメの体内から出てきた海洋ゴミを見たりすることを通して、海の環境を大切にしたいという気持ちをもつことができた。
- ・基本的な生活習慣が身についており、自然の家でもその経験が生きていたので、これからも続けてほしいと伝えた。自然の家職員も日々の指導の積み重ねの大切さに改めて気付くことができた。

○ 事業の課題

- ・今年度は海活動（SUP）、ドルフィンセンターでの活動が荒天のため実施できなかったが、工作活動を十分楽しみながら活動できてよかった。来年度は荒天でも体を動かす活動や、室戸の自然をさらに感じられるような活動も考えていきたいと感じた。
- ・学年が大きく違う児童が集まっている団体なので、それぞれの学年が満足できる活動を考えなければならないと感じた。特に幼児部は、実態に合わせて楽しめる活動をさらに考えていきたい。